

令和2年度版(2020年度版)『小学算数』 年間指導計画案(1年)

学校の授業以外の場での学習が可能と 考えられる学習活動を考慮した詳細版

本資料は、令和2年度版教科書『小学算数』に基づいて、学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。

■本資料の見方

本資料では、①習熟や定着のための確認ページ、②既習内容の復習ページ、③学習内容の日常生活への活用ページを中心に、「学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる教材・学習活動」と位置づけ、表の右端の列に示しています。

11 たしざん (FP. 4~15)

10月中旬~10月下旬 [10時間] [6時間]

【単元の目標】

・繰り上がりのある1位数と1位数の加法について、計算の意味や仕方を理解し、既習の計算の仕方や数の構成をもとに、具体物や図を用いて考えるときにも、考えた過程を振り返り、10のまとまりをつくるよさに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(1位数)+(1位数)【繰り上がりあり】の計算の仕方を理解し、その計算ができる。
思・判・表…1位数の構成や10の補数に着目して、計算の仕方を考え、説明している。
態…10のまとまりをつくることよさに気づき、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。

学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学校での授業時間を示しています。

9	○式を見て、繰り上がりのある加法の問題をつくることができる。	・加法の場面での問題づくりを行う。	
学習のまとめ 1時間(0時間)			
10	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.15)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動には、赤いアミを施すとともに、取り扱う際の指導上の留意事項などを示しています。

※本資料で示した各単元の学習活動、配当時数などは、今後公開される各種情報によって、変更となる可能性があります。ご了承ください。

『小学算数』 1年 年間指導計画（詳細案）

* さんすうのはじまり（上口絵1～口絵5） 配当時数なし

※ 「さんすうのはじまり」（口絵1～口絵5）は、幼稚園や保育園などこれまでの生活の中のようなすがすがしい写真で示されている。オリエンテーションや短時間学習などを通して弾力的に扱う。

0 ともだち（上P.2～9）

4月中旬 [3時間]

【単元の目標】

・数の概念や表し方を理解し、数の大きさやまとまりに着目して、数の大きさの比べ方を考えるとともに、数に親しみ、算数を学ぶことの楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…観点に応じた集まりのつくり方や1対1対応による数の比べ方を理解し、観点に応じてものの集まりをつくることや1対1対応によるものの個数、相等、多少を比べることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、観点に応じたものの集まりをつくったり、1対1対応させるといった数の大きさの比べ方を考えたりしている。

態 度…数のまとまりに着目することのよさや具体物を用いた活動を通して数の多少を比べたりすることのよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○池のまわりにいる動物たちや生き物に興味を持ち、お話を想像するとともに、ものの集まりやその個数（1～5）に関心を持ち、観点を意識してものの集合をつくる。	・絵を見て自由にお話をする。 ・同じ動物、生き物などに着目し、いろいろな観点に応じた集まりをつくりをする。	
2	○2つの集合の要素を1対1に対応させて、数の多少を比べることができる。	・2つの集合の要素を、1対1対応させて比べる方法を考える。 ・犬とバケツなどの2つの集合の要素を、線を結んで1対1対応させて、数の多少を比較する。	
3	○2つの集合の要素を、おはじきに置きかえて対応させ、比べることができる。	・2つの集合の要素の相等や多少を比較する方法を考える。 ・カレーと机などの2つの集合の要素を、おはじきを用いて、数の相等や多少を比べる。	

1 10までの かず（上P.10～27）

4月下旬～5月中旬 [9時間]

【単元の目標】

・10までの数について、数字の正しいよみ方やかき方、構成を理解し、個数を調べるのに半具体物や数字に置きかえて数えたり、考えたりするとともに、数詞や数字で表すことや比べることのよさ、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…0から10までの数の唱え方と、数字のかき方、数の順序や系列、大小を理解し、数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、0から10までの数について半具体物や数字に置きかえて考えたり、数にかかわる活動を通して、ものの個数・相等・大小を考えたりしている。

態 度…身の回りにあるものの数を数えたり、数字で表したりすることや数を比べたりすることのよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○「いち」「に」「さん」「し」「ご」の数詞を知り、確実に教えることができる。	・「いち」…「ご」の数詞を知り、確実に教える。 ・1から5までの数について、半具体物、数図、数字を互いに対応させる。	
2	○1から5までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・1から5までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・1から5までの数について、具体物、半具体物、数を関連づける。	
3	○1から5までの数について、数字や絵で表現することができる。	・1から5までの数の表し方について練習する。	
4	○「ろく」「しち」「はち」「く」「じゅう」の数詞を知り、確実に教えることができる。	・「ろく」…「じゅう」の数詞を知り、確実に教える。 ・6から10までの数について、半具体物、数図、数字を互いに対応させる。	
5	○6から10までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・6から10までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・6から10までの数について、具体物、半具体物、数を関連づける。	
6	○6から10までの数について、数字や絵で表現することができる。	・6から10までの数の表し方について練習する。	
7	○10までの数について、その系列を理解する。	・1から10までの数について、少ない数から並んだブロックを見て、その系列を調べる。	
8	○10までの数について、大小比較をすることができる。	・1から10までの数について、数の大小比較をする。	
9	○集合数の要素がないことを表す0の意味やかき方を理解する。	・0という数を知る。	

2 なんばんめ (上P.28~31)

5月中旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・数やことばを用いた位置や順番の表し方を理解し、集合数と順序数の違いを明らかにすることによって、集合数と順序数を数として統合的にとらえるとともに、具体的な場面で、位置や順番を表すのに数やことばを用いるよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

- | | |
|-------|--|
| 知・技 | ・数やことばを用いた位置や順番の表し方を理解し、数を用いて位置や順番を表すことができる。 |
| 思・判・表 | ・数を集合数や順序数を表すものとしてとらえ、表し方を考えている。 |
| 態 度 | ・具体的な場面で、位置や順番を表すのに数やことばを用いるよさを感じている。 |

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○集合数と順序数の違いを理解するとともに、数やことば、順序数を用いて、横に並んだものの順序や位置を表すことができる。	・絵を見て、順序や位置（前後）を表すのに、数やことばを用いることを知る。 ・集合数と順序数の違いを考える。	
2	○左右・上下のことばと順序数を用いて、ものの位置を表すとともに、集合数と順序数の違いをふまえ、日常生活に活用することができる。	・黒板に貼った絵を見て、物の位置（左右／上下）を表すのに、数やことばを用いることを知る。	

3 いくつと いくつ (上P. 32~41)

5月下旬 [7時間]

【単元の目標】

- ・10までの数について数の構成（合成・分解）を理解し、数を多面的な見方でとらえるとともに、数に親しみ、算数を学ぶことの楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…10までの数の構成（合成・分解）を理解し、10までの数の合成・分解や10までの数の多様な見方（加法的な構成）ができる。

思・判・表…10までの数について、2つの数から1つの数を考えたり、1つの数を2つに分けたりして、数を多面的にとらえようとしている。

態 度…1つの数を、ほかの数を用いていろいろな表し方でとらえようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○5人グループをつくる活動を通して、5を2つの数の組み合わせとしてとらえることができる。	・5人グループをつくる活動を通して、5の分解を体験する。 ・5の合成・分解を行う。	
2	○手の中に隠したおはじきの数を考える活動を通して、6の合成・分解ができる。	・手の中に隠したおはじきの数を考える活動を行う。 ・6の合成・分解をまとめる。	
3	○2つのさいころの目をあわせて7にする活動を通して、7の合成・分解ができる。	・2つのさいころの目をあわせて、7にする活動を行う。 ・7の合成・分解をまとめる。	
4	○数字カードを組み合わせて8をつくる活動を通して、8の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせて、8をつくる活動を行う。 ・8の合成・分解をまとめる。	
5	○数字カードを組み合わせて9をつくる活動を通して、9の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせて、9をつくる活動を行う。 ・9の合成・分解をまとめる。	
6	○数字カードを組み合わせて10をつくる活動を通して、10の合成・分解をすることができる。	・数字カードを組み合わせて、10をつくる活動を行う。 ・10の合成・分解をまとめる。	

7	○10づくりのゲームを通して、楽しみながら10の合成・分解に習熟する。	<ul style="list-style-type: none"> ・10個のブロックを使って、数あてゲームを行う。 ・数字カードをあわせて、10にする活動を行う。 ・10になる数を選んで、線で囲む活動を行う。 	
---	-------------------------------------	---	--

4 あわせて いくつ ふえると いくつ (上P. 42~53)

6月上旬～6月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- ・加法の意味や加法の用いられる場面について理解し、数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて加法の計算の仕方考えるとき、合併・増加の場面を式に表すよさに気づき、学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…合併・増加の場面について、加法の意味や和が10以下の加法の計算の仕方を理解し、「+」「=」の記号を用いて式に表したり、その計算をしたりすることができる。

思・判・表…数量の関係に着目し、絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、合併・増加の場面を加法として考えている。

態 度…身の回りから合併・増加の場面を見つけ、式に表すよさに気づき、ことばで表したり、加法を用いて解決したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
単元アプローチ (P. 42) 1時間			
1	○2つの数量を見つけ、合併の場面のお話をつくる。	・さし絵を見て、合併・増加の場面でのお話づくりをする。	
あわせて いくつ (P. 43~45) 2時間			
2	○「+」「=」のかき方や「しき」「たしざん」の意味を知り、合併の場面を式に表す方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・合併の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、加法の意味をとらえる。 ・合併の場面での式の表し方を知る。 	
3	○合併の場面における加法の意味理解を深め、和が5以下の計算ができる。	・合併の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。	
ふえると いくつ (P. 46~50) 3時間			
4	○増加の場面における加法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・さし絵を見て、増加の場面でのお話づくりをする。 ・増加の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、加法の意味をとらえる。 ・増加の場面での式の表し方を知る。 	
5	○加法の適用場面において加法の意味理解を深め、和が10以下の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・増加の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。 ・フレーズ型の「式」の意味を知る。 	
6	○たし算カードを使って、和が10以下のたし算の計算に習熟する。	・計算カードを使って、和が10以下のたし算の練習をする。	
0の たしざん (P. 51) 1時間			
7	○輪投げを通して、0の加法の意味を理解する。	・0を含む加法の意味を知り、計算をする。	

おはなし づくり (P. 52~53) 2時間			
8	○お話づくりを通して、加法の意味理解を深める。	・合併・増加を総合的にとらえたお話づくりをする。	
9	○加法の場面の絵本づくりに取り組み、絵を用いて表現することができる。	【ハロー！さんすう】 ・合併・増加の場面をとらえて、たしざんえほんをつくる。	・学校の授業以外の場合、【ハロー！さんすう】の活動に取り組みさせてもよい。

5 のこりは いくつ ちがいは いくつ (上P. 54~66)

6月下旬~7月上旬 [10時間]

【単元の目標】

・減法の意味や減法の用いられる場面について理解し、数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて減法の計算の仕方を考えるとともに、求残や求補、求差の場面を式に表すよさに気づき、学んだことのよさや楽しさを学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…求残や求補、求差の場面について、減法の意味や被減数が10以下の減法の計算の仕方を理解し、ひき算の記号「-」を用いて式に表したり、その計算をしたりすることができる。

思・判・表…数量の関係に着目し、絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、求残や求補、求差の場面を減法として考えている。

態 度…身の回りから求残や求補、求差の場面を見つけ、式に表すよさに気づき、ことばで表したり、減法を用いて解決したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場合での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
単元アプローチ (P. 54) 1時間			
1	○2つの数量を見つけ、求残の場面のお話をつくる。	・さし絵を見て、求残の場面でのお話づくりをする。	
のこりは いくつ (P. 55~59) 4時間			
2	○「-」のかき方や用語「ひきざん」の意味や求残の場面を式に表す方法を理解し、5までの数範囲の減法の計算ができる。	・求残の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、減法の意味をとらえる。 ・求残の場面での式の表し方を知る。	
3	○求残の場面における減法の意味理解を深め、9までの数範囲の減法の計算ができる。	・求残の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。	
4	○求補の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求補の場面で、減法の意味をとらえ、式の表し方を考える。	
5	○ひき算カードを使って、被減数が10以下のひき算の計算に習熟する。	・計算カードを使って、被減数が10以下のひき算の練習をする。	
0の ひきざん (P. 60) 1時間			
6	○ボウリングを通して、0の減法の意味を理解する。	・0を含む減法の意味を知り、計算をする。	

ちがいは いくつ (P. 61~64) 2時間			
7	○求差の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求差の場面で、減法の意味をとらえ、式の表し方を考える。 ・求差の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。	
8	○2数の違い(差)は、減法で求められることを理解する。	・どちらがどれだけ多いか、式やことばを使って考え表現する。 ・数の違いの求め方を考える。	
おはなし づくり (P. 65~66) 2時間			
9	○お話づくりを通して、減法の意味理解を深める。	・求残や求補、求差を総合的にとらえたお話づくりをする。	
10	○減法の場面の絵本づくりに取り組み、絵を用いて表現することができる。	【ハロー！さんすう】 ・求残や求補、求差の場面をとらえて、ひきさんえほんをつくる。	・学校の授業以外の場で、 【ハロー！さんすう】 の活動に取り組みさせてもよい。

6 かずを せいりしよう (上P. 68~71)

7月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・ものの個数を絵や図を用いて表すことで、その特徴がわかりやすくなることを理解し、データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴をとらえるとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…ものの個数を絵や図を用いて表すことで、その特徴がわかりやすくなることを理解し、簡単な絵や図を用いて表したり、よみとったりすることができる。

思・判・表…データの個数に着目し、身の回りの事象に関する数の大小関係を、絵や図を用いて整理して表すことのよさをとらえている。

態 度…数量を整理することに親しみ、ものの個数を絵や図を用いて整理することのよさに気づき、いろいろな場面で活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○ものの個数を絵や図を用いて表したり、よみとったりすることができる。	・ものの個数を絵や図を用いて整理する。 ・絵や図を見て、ものの個数を考察する。	
2	○1つのデータから、整理する観点によって並び方を変えることによって、絵グラフの変化をよみとることができる。	【ハロー！さんすう】 ・咲いたあさがおの花の数を調べ、絵や図を用いて整理する。 ・咲いた曜日、花の色と観点を変えて並びかえた絵グラフを考察する。	・学校の授業以外の場で、 【ハロー！さんすう】 の活動に取り組みさせてもよい。

* ふくしゅう (上P. 72~73) 配当時数なし

※	「ふくしゅう」(P. 72~73)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

7 10より おおきい かず (上P.74~83)

9月上旬~9月中旬 [8時間]

【単元の目標】

- 20までの数について、数のよみ方やかき方、構成を理解し、10のまとまりと端数という見方を用いて数の数え方を考えるとともに、10といくつと数えるよさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…20までの数のよみ方、かき方、順序や系列、大小を理解し、20までの数についてよんだり、かいたりすることができるとともに、20までの数の簡単な計算をしたりすることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、10のまとまりと端数という見方を用いて数の数え方を考えている。

態 度…10といくつと数えるよさに気づき、身の回りのものの数を数えたり、数を用いて表したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○20までのものの数を、10といくつという見方で考える。	・ヨットや魚、ひとでの数を数えることを通して、10より大きい数の表し方を考える。	
2	○20までのものの数を正しく数え、その数のよみ方、かき方を理解する。	・20までの数のよみ方、かき方を知る。	
3	○20までの数の数え方の理解を深める。	・20までの数の数え方の定着を図る。 ・2ずつ、5ずつまとまったものの数をくふうして数える。	
4	○20までの数について、「10といくつ」という見方で合成・分解ができる。	・20までの数の構成について、合成の見方で考える。 例 10と6で□ ・20までの数の構成について、分解の見方で考える。 例 13は10と□	
5	○20までの数について、順序や系列を理解する。	・20までの数の系列をいろいろな見方でとらえる。	
6	○20までの数について、大小比較の仕方を理解する。	・20までの数の大小関係を考える。	
たしざんと ひきざん (P.82~83)		2時間	
7	○10と1位数の加法とその逆の減法の計算ができる。	・20までの数の構成を、10と1位数の加法とその逆の減法でとらえる。 例 $10+6$ $16-6$	
8	○20までの数範囲で、繰り上がりのない(2位数) + (1位数) や繰り下がりのない(2位数) - (1位数) の計算ができる。	・20までの数の構成を加法や減法でとらえる。 例 $12+4$ $14-2$	

8 なんじ なんじはん (上P. 84~85)

9月中旬 [1時間]

【単元の目標】

- 時計の長針と短針の役割について理解し、1日の生活と関連づけて「何時」「何時半」の時刻をよむことができるとともに、時刻と日常生活を関連づけて時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…1日の生活と結びつけて、時刻の意味を理解し、「何時」「何時半」をよんだり、時計で表したりすることができる。

思・判・表…時計の長針・短針の位置関係をとらえ、「何時」「何時半」のよみ方を考えている。

態 度…時刻に関心を持ち、1日の生活と関連づけて、時刻をよもうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○1日の生活と関連づけて、時刻の意味を理解し、時計を見て、「何時」「何時半」をよむことができる。	・1日の生活と関連づけながら、「何時」「何時半」の時刻をよむ。	

9 どちらが ながい (上P. 86~90)

9月下旬 [5時間]

【単元の目標】

- 長さの意味を理解し、適切な方法で長さを比べる技能を身につけ、比べ方を見いだしたり、大きさを表現したりするとともに、長さを測定することのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…身の回りのいろいろなものの長さのはかり方、比べ方を理解し、長さを比べたり、任意の単位量のいくつ分として数で表したりすることができる。

思・判・表…身の回りの長さに着目し、いろいろなものの長さの比べ方を見いだしたり、基準量のいくつ分としての表し方を考えたりしている。

態 度…身の回りのいろいろなものの長さに関心を持ち、くふうしてその長さを比べようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○具体的なものの長さを比べることを通して、長さの意味や直接比較の方法を理解する。	・2本の鉛筆やひも、紙の縦と横の長さを直接比較によって比べる。	
2	○長さについて、間接比較の方法を理解する。	・本の縦と横の長さを、間接比較(テープで長さを抽出する)で比べる。 ・テーブルと扉の幅、水そうと机の幅を間接比較で比べる。	
3	○テープを用いて、身の回りのものの長さを比べることができる。	【ハロー！さんすう】 ・身の回りのものの長さ比べをする。	
4	○身の回りのものの長さを、基準量のいくつ分として数値化することを通して、測定の基礎を理解する。	・いろいろなものの長さを、任意単位を使って表す。	
5	○身の回りのものの長さを、マス目のいくつ分として数値化することを通して、測定の基礎を理解する。	・いろいろなものの長さを、マス目の数を使って表す。	

【単元の目標】

- 3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解し、その計算（答えが20未満）の技能を身につけるとともに、3つの数の計算が1つの加法や減法の式に表せるよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解し、3つの数を用いて1つの式に表し、結果を計算で求めることができる。

思・判・表…2つの数の加法や減法の考え方を使って、3つの数の加減の計算の仕方を考えている。

態 度…3つの数の計算が1つの加法や減法の式に表せるよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○加法と加法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 電車ごっこを通して、3つの数の計算の場面を体感する。 • 3つの数の加法の式の計算の仕方を考える。 	
2	○減法と減法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 電車ごっこの場面を通して、3つの数の減法の式の計算の仕方を考える。 	
3	○加法と減法、減法と加法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 3つの数の加減のまざった式の計算の仕方を考える。 	
4	○お話づくりを通して、3つの数の加減のまざった計算の意味理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> • 3つの数の加減のまざった式の計算を総合的にとらえた問題づくりをする。 	

11 たしざん (下P. 4~15)

10月中旬~10月下旬 [10時間] **[6時間]**

【単元の目標】

- ・繰り上がりのある1位数と1位数の加法について、計算の意味や仕方を理解し、既習の計算の仕方や数の構成をもとに、具体物や図を用いて考えとともに、考えた過程を振り返り、10のまとまりをつくるよさに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技	…(1位数)+(1位数) [繰り上がりあり] の計算の仕方を理解し、その計算ができる。
思・判・表	…1位数の構成や10の補数に着目して、計算の仕方を考え、説明している。
態 度	…10のまとまりをつくることのよさに気づき、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「つぎのがくしゅうのために」(P. 3) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ (P. 4)		
・	・さし絵を見て、たし算の問題をつくる。		
2	○問題づくりを通して、繰り上がりのあるたし算に興味を持ち、計算の仕方を考える。	・加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 例 9 + 4 ・9 + 4 の計算の仕方をまとめる。	・P. 4 の内容に取り組み、これまでに学習したたし算について振り返る。今後の学習への見通しを持たせておくことで、 <u>1時間扱いとする。</u>
3	○加数分解による繰り上がりのある加法の意味理解を深め、計算ができる。	・加数分解による繰り上がりのある加法の計算の定着を図る。 例 8 + 3	
4	○被加数<加数の場合の繰り上がりのある加法の計算ができる。	・被加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 例 3 + 9 ・3 + 9 の計算の仕方をまとめる。	
5	○繰り上がりのある加法の仕方の理解を深める。	・加数分解、被加数分解のどちらも使える場合の計算の仕方を考える。 例 6 + 7	
6	○たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算を習熟する。	・たし算カードを並べ、きまりを見つける。 ・計算カードを使って、繰り上がりのある計算の練習をする。	・加法の計算の練習をする。授業では、加法の計算の仕方の確認と、たし算カードの並び方の考察に重点を置くことにより、 <u>1時間扱いとする。</u>
7			
8			
9	○式を見て、繰り上がりのある加法の問題をつくらることができる。	・加法の場面での問題づくりを行う。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
10	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 15) に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

12 かたちあそび (下P. 18~22)

10月下旬~11月上旬 [5時間] **[4時間]**

【単元の目標】

- ・身の回りにある立体図形について、特徴や機能を生かして形を構成し、具体的な操作を通して形の構成について考えとともに、図形に親しみ、学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…構成や観察を通して、ものの形を認めたり形の特徴を理解したりするとともに、身近にある具体物（箱や筒など）を用いて、ものの形を構成することができる。

思・判・表…立体図形の形に着目し、特徴をとらえたり、形の構成について考えたりしている。

態 度…図形に親しみ、身近にある具体物（箱や筒など）を使っているいろいろなものの形をつくらうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○身の回りにある立体図形の特徴や機能を生かして、形を構成しようとする。	・箱などを積んだり重ねたりして、乗り物や動物などをつくり、具体物の特徴や機能を調べる。	
2	○手探りで立体図形を触り、その特徴をとらえ、立体図形を識別するとともに、形の特徴をつかみ、なかま分けをすることができる。	・箱など、身の回りの具体物（立体図形）を分類する。 ・立体図形の構成要素をとらえ、その特徴を説明する。 ・立体図形の構成要素をとらえ、識別する。	
3 ・ 4	○立体図形から平面図形が抽出できるとともに、立体の面をうつつして平面図形を抽出できる。	・立体の面をうつつして平面図形を抽出し、その形を使った絵をかく。	・立体の面をうつつして絵をかく。授業では、かいた絵と、使った立体の発表に重点を置くことにより、 <u>1時間扱いとする。</u>
5	○具体物を操作してできた形について着目することで、図形についての理解を深める。	【ハロー！さんすう】 ・折り紙を折ってできた形の変化をみて、どんな形ができたか考察する。	

13 ひきざん (下P.24~35)

11月上旬~11月下旬 [10時間] **[6時間]**

【単元の目標】

・繰り下がりのある(十何)-(1位数)の減法について、計算の意味や仕方を理解し、既習の計算の仕方や数の構成をもとに、具体物や図を用いて考えるとともに、考えた過程を振り返り、被減数を10といくつの数とすることに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(十何)-(1位数) [繰り下がりあり] の計算の仕方を理解し、その計算ができる。

思・判・表…数の構成に着目して、計算の仕方を考え、説明している。

態 度…被減数を10といくつの数とすることに気づき、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.23)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 ・ 2	○単元アプローチ (P.24) ・さし絵を見て、ひき算の問題をつくる。		
2	○問題づくりを通して、繰り下がりのあるひき算に興味を持ち、計算の仕方を考える。	・減加法に適した減法の計算の仕方を考える。 例 13-9 ・13-9の計算の仕方をまとめる。	・P.24の内容に取り組み、これまでに学習したひき算について振り返る。今後の学習への見通しを持たせておくことで、 <u>1時間扱いとする。</u>
3	○減加法による繰り下がりのある減法の意味理解を深め、計算ができる。	・減加法による繰り下がりのある減法の計算の定着を図る。 例 11-8	

4	○(十何)ー(1位数)で、繰り下がりのある減法の計算を、減々法を使って計算することができる。	・減々法に適した減法の計算の仕方を考える。 例 12-3 ・12-3の計算の仕方をまとめる。	
5	○繰り下がりのある減法の仕方の理解を深める。	・減加法、減々法どちらも使える場合の計算の仕方を考える。 例 15-8	
6 7 8	○ひき算カードを使って、繰り下がりのある減法の計算を習熟する。	・ひき算カードを並べ、きまりを見つける。 ・計算カードを使って、繰り下がりのある計算の練習をする。	・減法の計算の練習をする。授業では、減法の計算の仕方の確認と、ひき算カードの並び方の考察に重点を置くことにより、 <u>1時間扱い</u> とする。
9	○式を見て、繰り下がりのある減法の問題をつくることができる。	・減法の場面での問題づくりを行う。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
10	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.35)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

● **たすのかな ひくのかな** (下P.36~37) 12月上旬 [2時間] [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 2	○加法・減法を使って問題を解決することを通して、演算を決定する力を伸ばす。	・問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて、解決する。	・加法や減法の計算をする。授業では、演算決定の根拠を話し合う活動に重点を置くことにより、 <u>1時間扱い</u> とする。

14 どちらが おおい どちらが ひろい (下P.38~43)

12月上旬~12月中旬 [5時間]

【単元の目標】

・かさや広さの意味を理解し、かさや広さの比べ方を考えとともに、かさや広さを測定することのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…身の回りのいろいろなもののかさや広さのはかり方、比べ方を理解し、かさや広さを比べたり、任意の単位のいくつ分として数で表したりすることができる。

思・判・表…身の回りのかさや広さに着目し、いろいろなもののかさや広さの比べ方や、基準量のいくつ分としての表し方を考えている。

態 度…身の回りのいろいろなもののかさや広さに関心を持ち、くふうしてそのかさや広さを比べようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
単元アプローチ (P.38) 1時間			
1	○容器が変わっても、かさは変わらないことを理解する。	・水をいろいろな容器に移しかえて、かさを比べる。	
1 かさくらべ (P.38~41) 2時間			
2	○水のかさを直接比較、間接比較の方法で比べることができる。	・かさの意味を知る。 ・かさを直接比較、間接比較によって比べる。	

3	○かさを任意単位を用いて、数値化して比較する方法を理解する。	・かさを任意単位(カップ)を使って数値化し、比べる。	
2 ひろさくらべ (P. 42~43) 2時間			
4	○広さを直接比較の方法で比べることができる。	・広さの意味を知る。 ・広さを直接比較によって比べる。	
5	○広さを任意単位を用いて、数値化して比較する方法を理解する。	・広さを任意単位(方眼)を使って数値化し、比べる。	

*** ふくしゅう (下P. 44~45) 配当時数なし**

※	「ふくしゅう」(P. 44~45)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

15 20より大きいかず (下P. 47~59)

1月上旬~1月下旬 [11時間] **[10時間]**

【単元の目標】

・120程度までの数の構成、よみ方、かき方や順列や系列、大小を理解し、数のまとまりに着目し、数の表し方や比べ方を考えるとともに、十進位取り記数法のよさに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…120程度までの数のよみ方、かき方、順序や系列、大小を理解し、正しく数えたり、数字で表したりすることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、多くの数を数えるとき、10ずつのまとまりをつくって考えるよさを見いだしている。

態 度…数のまとまりに着目することによって、10ずつまとめるよさに気づき、身の回りのものの個数を10のまとまりをつくって、数えたり表そうとしたりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「つぎのがくしゅうのために」(P. 46)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 かずの あらわしかた (P. 47~50) 3時間			
1 ・ 2	○2位数を正しく数え、その数のよみ方とかき方や十進位取り記数法を理解する。	・20より大きい数の数え方(10がいくつ分とあといくつ)を考える。 ・2位数のよみ方、かき方(位取り記数法)を知る。 ・2位数の数え方の定着を図る。	
3	○2位数が示す各数字の意味を理解し、2位数の構成について理解を深める。	・「10がいくつと1がいくつ」で表された数を表す。 ・数を「10がいくつと1がいくつ」とみてブロックを並べる。	
2 100までの かず (P. 51~54) 3時間			
4	○2位数の構成をもとに、100について調べ、100について理解する。	・100のよみ方、かき方を知る。	
5	○100までの数の数表から、数の構成や規則性を理解する。	・100までの数のカードを並べた数表の規則性について見つけたことを発表する。	
6	○100までの数について、順序や系列、大小を理解する。	・かずのせん(数直線)を使って、100までの数の系列や大小関係を考える。	

③ 100より 大きい かず (P.55~58) 4時間			
7	○100をこえる数の構成, よみ方, かき方を理解する。	・100をこえる数の表し方を考え, よみ方, かき方を知る。	
8	○120程度までの数について, 順序や系列, 大小を理解する。	・100をこえる数の系列や大小関係を考える。	
9	○120程度までの数について, 数の多面的な見方をすることができる。	・数を多面的にとらえる見方について考える。	
10	○身の回りにあるいろいろな数を見つけようとする。	【ハロー!さんすう】 ・身の回りにあるものから, 120程度までの数を探す。	・学校の授業以外の場で, 【ハロー!さんすう】の活動に取り組みせてもよい。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
11	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.59)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際, 児童がわからなかった問題は, 個別に支援する。

* うちゅう すぐろく (下P.60~61) 配当時間なし

※	「うちゅう すぐろく」(下P.60~61)は, 予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

16 なんじ なんぷん (下P.62~65)

2月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・1日の生活と結びつけて時刻の意味を理解し, 時刻をよむことができるとともに, 時刻を用いることで日常生活の行動に利用できるというよさに気づき, 生活に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…短針は「何時」, 長針は「何分」を表していることを理解し, 時計をよんだり, 時計で時刻を表したりすることができる。

思・判・表…時計の目盛りと長針, 短針の位置関係に着目して, 時刻のよみ方を考えている。

態度…時刻を用いることで日常生活の行動に活用できるというよさに気づき, 日常生活の中で時刻を用いようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○1日の生活と関連づけながら, 「何時何分」をよむことができる。	・1日の生活と関連づけながら, 「何時何分」の時刻をよむ。	
2	○日常生活と時刻を関連づけて発表することができる。	【ハロー!さんすう】 ・自分の生活と時刻を関連づけて, 休みの1日について発表する。	・学校の授業以外の場で, 【ハロー!さんすう】の活動に取り組みせてもよい。

17 たしざんと ひきざん (下P.67~71)

2月上旬~2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・数の構成をもとに, (何十)±(何十), (2位数)±(1位数) [繰り上がり, 下がりなし] の計算の仕方を理解し, 10のまとまりに着目し, 既習の加法及び減法に帰着して計算の仕方を考えるとともに, 考えた過程を振り返り, 今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(何十)±(何十)，(2位数)±(1位数) [繰り上がり，下がりなし] の計算の仕方を理解し，その計算ができる。

思・判・表…10のまとまりに着目し，既習の加法及び減法に帰着して計算の仕方を考えている。

態 度…数の構成をもとに計算できるよさに気づき，2位数の構成をもとにして，加法や減法の計算の仕方を考えようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.66) は，短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○ (何十) + (何十) の計算の仕方を理解し，(何十) + (何十) = (何十)，100の計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)をもとに，20+30の計算の仕方を考える。	
2	○ (何十) - (何十) の計算の仕方を理解し，(何十)，100 - (何十) = (何十) の計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)をもとに，50-20の計算の仕方を考える。	
3	○簡単な2位数の加法の計算の仕方を理解する。	・20+4の計算の仕方を考える。 ・35+3の計算の仕方を考える。	
4	○簡単な2位数の減法の計算の仕方を理解する。	・26-6の計算の仕方を考える。 ・26-3の計算の仕方を考える。	

18 ずを つかって かんがえよう (下P.73~81)

2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

・問題場面の意味をよみとり，問題の要素を図に表して数量の関係をとらえ式に表すとともに，場面を図で表すことによさに気づき，今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…問題場面の意味をよみとり，その数量の関係を理解し，式や図で問題場面を表したり，式をよみとったりすることができる。

思・判・表…数量の関係に着目し，問題場面を1対1対応の考え方や筋道を立てた考え方を用いてとらえ，式に表している。

態 度…問題場面を図で表すことによさに気づき，図や具体物を使って解決しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○順序数が含まれる問題を解くことができる。	・順序数が含まれる場面について，加法や減法の使い方を考える。	
2	○2つの違う種類の数を同じ数に置きかえて問題を解くことができる。	・間接加法，間接減法の場面について，加法，減法の使い方を考える。	
3	○求大の場面を理解し，計算で解くことができる。	・求大の場面について，加法の使い方を考える。	
4	○求小の場面を理解し，計算で解くことができる。	・求小の場面について，減法の使い方を考える。	

19 かたちづくり (TP. 82~85)

2月下旬 [4時間]

【単元の目標】

- 色板やひごでいろいろなものの形を構成して形に対する感覚を豊かにし、ものの形や特徴を考えるとともに、算数のよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…色板やひごでいろいろなものの形を構成することを通して、ものの形や特徴を理解し、色板やひごを使って、いろいろな形を構成したり変形したりすることができる。

思・判・表…形に着目し、つくりたい形の構成の仕方を考えたり、形を構成している色板やひごをどのように移動させれば新しい形ができるか考えたりしている。

態 度…色板やひごでいろいろなものの形を構成することを通して、図形に関する経験を豊かにしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○色板でできた形が何かを考えたり、色板を使っていろいろな形をつくらったりすることができる。	・色板を組み合わせて、いろいろな形を構成する。	
2	○色板を使っていろいろな形を構成したり、色板をずらしたり、回したり、裏返したりして形を変形したりすることができる。	・4枚の色板で図形を構成する。 ・色板を動かして、形を変形する。	
3	○ひごを使って、いろいろな形を構成することができる。	・ひごを使って、いろいろな形を構成する。	
4	○格子点を使って、いろいろな形を構成することができる。	・格子点を使って、いろいろな形を構成する。	

20 おなじ かずずつ わけよう (TP. 86~87)

3月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- 1つの数を同じかずつ分けることで、数にいろいろな見方があることを理解し、数のまとまりに着目し、絵や図、式に表して考えるとともに、まとめて数えることのよさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…身の回りの具体物を等分する方法を理解し、具体物を何かかずつに分けることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、身の回りの具体物を何かかずつに等分することについて、絵や図、式に表して考えている。

態 度…身の回りの具体物を適当な大きさのまとまりをつくって等分するために、まとめて数えることのよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○具体物を同じかずつ分けることができる。	・りんごを1人に同じかずつ分けると、何人に分けられるか考える。	
2	○1人分の数を求めることができる。	・バナナを何人かで同じかずつ分けると、1人分はいくつになるか考える。	

● 1年のまとめ (下P. 89~92) 3月上旬 [4時間] 【0時間】

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 ~ 4	○1年の学習内容についての理解を確かなものにする。	・1年の学習内容を確認する。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。